

次号予告

とびら

ある精神病院内での作業療法討論会より..... 高茶屋病院 大 橋 博

展 望

モダプツと作業療法..... 神奈川リハセンター 佐 藤 馨

スモンの理論から実際まで..... 都神経科学研究所 中 村 隆 一

講 座

PT・OT と研究 (5)..... 東京病院 砂 原 茂 一
東大 上 田 敏

研究と報告

老人の関節可動域の研究..... 浴風会病院 伊 藤 直 栄

幼児の身体構造に関する認識力の研究

—普通児と CP 児の比較—..... 倉敷くすの木園 福 本 安 甫

晴眼者による盲人誘導法の実際

—基本要素別訓練法について—..... 国立東京視力障害センター 田中 一郎, 他

書字による利き手変換..... 神奈川総合リハセンター 井 神 隆 憲

チームの中の PT・OT

座談会/PT・OT と医師..... 岡大整形 明 石 謙, 他

資 料

1973 年度 AJOT まとめ..... 九州リハ大 佐 藤 剛

Q and A Q: 七沢病院 佐 藤 馨
A: 七沢病院 福 井 罔 彦

メディカルプログレス..... 東大 上 田 敏
都養育院 荻 島 秀 男

座談会

ボーバス法講習会に参加して..... リハビリテーション学院 田村美枝子, 他

編集後記

編集会議の席につくと「役に立って、理解し易く、視野を広めながら深めていけて、その上お互いに治療していることの情報交換ができるように……」と心掛けています。やがて依頼した著者から原稿が届くと途端に心変りがするのである。「まだ外国の理論や技術の輸入期なのかなア、それとも消化期なのか、もしかしたら独創期か」と。

特集の切断についての感想は中村氏他による義足の評価で新しいより良いものを追おうとする研究の熱意を感じとった。関さん他の両上肢切断の患者さんへの作業療法の内容は障害部位や箇所の重度で複雑なのに驚いたし、OT の取組み方の真剣さと部品の耐久度を正確に把えて国産品と輸入品の比較をしているのも感心させられた。鈴木氏の両下肢切断の理学療法は実に纏め方が上手で教科書の意味で用いるのには最適であると思う。21 の文献をあげられ多角的に把えておられるのも喜ばしいことである。大喜多潤氏他による上肢切断に於ける術直後義肢装着法はセラピストが手術に立ち合うとのことであり、一貫して質の高い治療を

おこなうのに役立つであろう。チームの全員が持つ能力を最大限に患者さんに発揮するためにも他の職種の人が PT, OT 室に経過を見にきたりする交流が大切と思う。吉田清和氏他による老人の切断のリハビリテーションでは原因、年齢、合併症とか国内外の文献を元にして纏めてある。基礎知識として大いに役に立つものである。それにしても老人が義肢を心から欲するような環境を早く作りたいものである。義手を着けて趣味活動をするとか、義足を着けて友人宅を訪問するとか。

Q and A で教育問題が出ているがこの辺で皆のブレンを集めて後世の人にはめられるような PT, OT の教育を根本的に練り直すのもよいのではなかろうか。そのためにも松村・矢谷氏の内容は方向を示す 1 つの資料となるであろう。

枚数の関係から他の原稿について書くことができない。

すべての原稿を読んでみてこの号が特別に良くできたように思い 1 人 1 人の著者に会って握手をし「どうも有難うございました。又の機会に今以上のご協力を」といいたい。これが私の率直な編集後記である。
(鈴木明子)

編集顧問

天 児 民 和

九州労災病院長

五 味 重 春

府中リハビリ学院長

砂 原 茂 一

国立療養所東京病院長

津 山 直 一

東京大学教授・整形外科
(五十音順、以下同じ)

編集委員

上 田 敏

東大リハビリ部

荻 島 秀 男

都養育院リハビリ部

佐 藤 馨

神奈川リハセンター

鈴木 明子

府中リハビリ学院

谷 岡 淳

自治医科大学

田 村 美枝子

リハビリ学院

寺 山 久美子

都心障センター

松 村 秩

都養育院リハビリ部

編集同人

明 石 謙

大 井 淑 雄

大 川 嗣 雄

大 橋 博

鎌 倉 矩 子

紀 伊 克 昌

小 林 夏 子

駒 沢 治 夫

佐 藤 剛

田 原 澄 彦

富 岡 詔 子

奈 良 勲

藤 沢 しげ子

藤 本 欽 也

前 田 守

松 本 妙 子

矢 谷 令 子

山 下 隆 昭

横 山 巖

和 才 嘉 昭

(担当 細田・岩元・松橋)